

(別紙)

自治体名： 東北町

	審査項目	チェック欄	理由又は今後の対応方針
1. 計画規模等の妥当性			
①個別処理との経済比較に関する上位計画等との適合	○都道府県構想（見直し予定を含む）に適合しているか。	○	適合している。
	○現在の整備単価を分析し今後の整備単価の見通しと、より一層のコスト低減方策について合理的な検討がなされているか。	○	施行方法や路線等を合理的かつ、低コストで行う検討をしている。
	○整備順位の検討を行うとともに整備のスピードアップ、効果発現の迅速化のための方策等について合理的な検討がなされているか。	○	住民の接続意思や、接続足価の観点から整備順位を検討している。
②フレームの妥当性	<計画人口について>		
	○国立社会保障・人口問題研究所の推計値の活用など予測の根拠が明確か。	○	高瀬川流域総合計画との整合が図られている。
	○開発計画等の進捗状況に照らし、目標年次における計画人口が妥当であるか。	○	幾通りの推計方法を比較し、目標年次における計画人口を設定している。
<汚水量原単位の決定について>			
○変動傾向を含め、汚水量原単位の将来設定が、現状と比較して、過大になっていないか。	○	概ね現状通り（平成28年度見直し済み）	
③実績を踏まえた増設・拡張の妥当性	○現有施設の処理能力に対する汚水流入量やその見込みから即座に増設する必要があるか。	○	現時点での流量では、増設する必要はない。
	<面整備の進捗について>		
	○面整備の進捗率。	○	48.5%の進捗状況（平成30年3月現在）
	<接続料について>		
○接続率の現状	○	56.0%（平成30年3月現在）	
○下水道供用前における接続足価の取組み。	○	供用区域となる住民に手紙、工事説明会で供用開始区域、開始年月日及び供用開始までの手順を説明。	

	○下水道供用後における接続促進の取組み。	○	供用開始説明会を開催し、手続きや使用料について説明している。
	<稼働状況等の実態把握>		
	○現有施設の処理能力に対する日最大流入汚水量及び水量の変動傾向の状況について適切に把握しているか。	○	現有施設の能力は、800m ³ /日に対して、日最大流入汚水量の実績は、1,354m ³ /日となっており、75%の稼働率となっている。
	○雨天時の浸入水による影響を踏まえ、日最大流入汚水量の実績を適切に算定しているか。	○	過去10年間（平成20年～平成29年）の流入実績を把握し、降雨後2日間を雨天時として取り扱っている。
	○運転管理の実態を踏まえ、施設能力等を適切に算定しているか。	○	概ね適合している。
	<一体施工の妥当性>		
	○時間経過を考慮した経済性や、用地・施設配置による施工性等の観点から一体施工の妥当性があるか。	○	現時点での増設の検討はない。
2. 事業の継続性	○長期的（概ね50年間）な収支バランスの試算を行い、長期的収支バランスの見通しを立てているか。	○	平成29年度に「経営戦略」を策定し、中長期的な見通しの参考にしている。
	○中期の期間（概ね5年）における収支改善方策の内容、実施時期、目標効果や中期の収支の見通しを立てているか。	○	起債申請時以前年度までの収支等を基に、10年間の収支計画を立てている。